

## 明星同窓会会報第31号補遺

### 「学舎でのあの日、あの時」

明星学苑創立一〇〇周年を記念し、会報ではより多くの卒業生のメッセージを載せたいとの編集委員の意向を反映し、幅広い年代層の卒業生に原稿をお願いした。お一人お一人の短いメッセージをと企画し、お願いした字数は少なかつたのだが、予想を上回る字数の原稿を多数頂戴した。会報委員会ではお寄せ頂いた原稿の短縮を分担し、3ページに収めたが、原稿を書いてくださった方々の溢れる思いをお伝えしたく、頂いた字数のままの原稿を補遺としてホームページに載せることとなった。より多くの方々にお読み頂ければ幸いである。(会報編集委員会)

昭和二〇年八月一五日、終戦(太平洋戦争)の日、通常通り学徒動員(奉仕)によって、東芝府中工場に行っていたが、正午(十二時)集合が掛り工場事務所前に集合し、玉音放送(終戦の)を聞き、即、荷物をまとめて学校へ移動。その後、各人、帰宅。色々、個人個人、思いがあつたことと思う。気の抜けた感じであつた。その後、校長をはじめ先生方の話が一人〇度変つたように、違和感を感じたことを思い出している。学制改革により、在学が一年延長された。大学受験では志望校の学科が募集せず、また試験日が夏になった。特に「機械工学」。終戦後は、剣道・騎馬戦は御法度となり、運動会できず。明星の年

表でもつくってみては如何ですか。

(平山道雄 18男)

昔の母校の正門は、現在のバス停横ではなく、東京農工大との間の道路を七〇m位歩いた場所にあり、門をくぐると正面にピラミッド型の玄關が聳え、右側に二宮金次郎の銅像が建っていた。その後ろに木造の校舎があり、その先が狭い土のグラウンドだった。一周二〇〇mのコースしか造れず一番の問題は一〇〇mの徒競走のコースだった。校舎に沿って北から南にコースを造るのだが、ゴールの先2m程で道路になってしまい、その間に植えられていた樅の木に走り終わるとどき付いて、皆、必死に止まっていた。若き日のなつかしい思い出。(原満紀 21男)

昭和二九年四月明星幼稚園さくら組に入園。同時の学苑通りは、車が一台通れる位のジャリ道。うめ組の松村先生(メガネを掛けたやさしい先生)は帰りに皆をバス停まで送ってくれる。一番最初に並んだ子供は先生と手をつなげるので私はいつも一番。先生の手の冷たさが今でも記憶に残っている。四歳の子供が電車とバスで一人を通う。今では考えられないのどかな時代だった。(高橋隆則 37男)

明星小学校に在籍した六年間の中で、最も記憶に残る日は、担任の柴山先生が突然学苑を去った日です。三年生のある朝、登校すると皆が泣いているのです。黒板には先生が学苑を辞する旨の別れの言葉があるだけでした。大人になれば、突然職場を辞することは理解できますが、その時は理解を超えた出来事で

した。一年生の時から担任だった柴山先生は、軍隊帰りという事で厳しい先生でした。「足を開け、歯を食い縛れ」と言われ、頬にビンタされることも、体罰禁止の今ではありえないことですが、正義と勇気を重んじる柴山先生の愛情の裏付けある指導として、永く印象に残るものです。(白澤宏規 2小)

五年・六年の海の学校では、カナヅチの私達は、晒の腰紐を巻いて、犬かきを教わりました。先生の所まで足を着いてはいけなと言われ、死に物狂いで泳ぎきり、抱き上げてもらいました。横山先生の厳しさと優しさを感じた一コマです。(井上順子 8小)

小学三年生の頃、皆が机の上にランドセルと帽子を載せ、すっかり帰り支度のできたところで「お楽しみ」の時間は始まった。阿部先生が毎日少しずつ「海底二万マイル」などの物語を読んでくださるのだ。時間にすれば恐らく五分か十分くらいだったと思うが、一日が終わった解放感の中で物語の世界に浸る時間は楽しく、毎日、話の続きを聞くのが待ち遠しかった。(白井悦子 12小)

私が小学校で過した一九七〇年四月から一九七六年三月は、今の校舎の反対側、南側にある校舎でした。思いつくままの他愛のない思い出ばかりで失礼します。入学当時は、慣れない電車通学。「経路別登校」で上級生の女の子が引率してくれたのですが、ある時、一人で勝手に電車に乗ってしまった、彼女をとんでも困らせてしまいました。頻度は忘れてしまいましたが、「食堂利用」がとても楽しみ

でした。メニューは三つだけ。カレー、うどん、タンメンだったと思います。私はいつもカレーを頼んでいました。すごく美味しかったです。山の学校、海の学校、スキー学校、修学旅行。どれもが学友たちとの楽しい旅行でした。やんちゃだったので、先生方をとても困らせました。毎朝起きて、学校に行くのがとても楽しかった。朝礼前にみんなと校庭を駆け回って遊ぶのが大好きでした。そして、恥ずかしながら、六年生の時に初恋をしました。卒業式、当日の講堂で「仰げば尊し」を歌った時は、本当に悲しかった。私にとって明星小学校での六年間は、人生の中で最も楽しかった時間でした。

#### (山下耕平 22小)

幼稚園から高校まで明星に通わせていただきました。中でも小学校は、当時一年生から六年生までクラス替えがなかったため、友達との思い出は濃いものになっています。四年生の時の担任・影井先生に、仲間の大切さを教わってクラスの団結ができ、最終学年の六年生の球技大会で男子ソフトボール、女子ドッジボールの同時優勝を成し遂げました。女子はソフトボールの球拾いを手伝い、男子もドッジボールの練習相手になってくれて、クラス一丸となって成し遂げた優勝は、結果だけでなく、そこまでの過程で「仲間と協力しあう」楽しさを教わりました。六年の担任・小鷹先生が、優勝が決まった後にみんなにくださったコーヒー牛乳は、思い出の味です。今でもそのころからの友人たちは、私の宝物になっています。

#### (有馬圭子 21女)

一〇〇周年おめでとうございます。遠足で見たヒカリゴケ、いろは坂でバスガイドさんと歌った歌など、楽しかった明星小学校が懐かしく思い出されます。(佐藤祐子 31女)

創立一〇〇周年おめでとうございます。わたしは、昭和三八年に女子部にお世話になり、平成六年まで三〇年。その後、幼稚園に移って平成一二年までと長きに渡り在籍させていただきました。退職して二〇年余り。お陰様で元気に日々を送っておりますが、年齢を重ねて具体的な思い出を紹介することが叶いません。ただ、緑豊かな学苑で、多くの生徒の皆さん・園児たちに囲まれて、また、同僚の先生方、保護者の皆さんに支えられて過ごせたことを何よりも幸せに思っております。卒業生の皆さまのご健勝・ご活躍と共に、明星学苑の次の一〇〇年の一層の発展を願っております。ありがとうございます。

#### (三澤幸子・元教員)

今も続く歌のある人生、始まりは森井先生ご指導の中学校合唱部でした。美しき青きドナウ、ハレルヤなどを初めて歌いました。男子部合唱部と合同練習、神田共立講堂での発表会で松島詩子さんに花束をお渡ししたことなどが思い出されます。(匿名1女聞き書き)

初めての避難訓練…府中消防署の立ち合いで行われる事になり、色々と役割が課せられました。私は理科室に大事な物(何だったのでしょうか?)を取りに行くと、私の親友は、おつとり刀で男子部との境の枝折り戸を開け、職員室に知らせにと。放送で「地震だ!理科室

から出火」。理科室にすつとんで行った私は、小坂先生に、ここは「火元だ」と叱られて、通学カバン(教科書を入れると重いので、こっそり座布団を入れた)を持ち、上履きのまま校庭へ。迅速に出来たとお褒めの言葉をいただき大喜びでした。けれど、これは地震の訓練なので、上から屋根瓦や色々な物が落ちてくるので、カバンで頭を守るように出来たら良かったと(当時校舎は木造二階建)。今でも忘れられない教訓になりました。

#### (諏訪佐智子 2女)

女子八星会の私達は、中高六年間二クラス編成の最後の学年でした。六年間一緒のクラスメイトも多かったし、学年全員、顔見知り楽しい学校生活を送りました。学校行事として、高2を除いて中一から高三まで、毎年、宿泊を伴う修学旅行がありました。これは鈴木主事先生の「女の子は将来、家庭に入った中々旅行は出来ないから、在学中に見聞を深めるように」というお考えからだったように、女子部の伝統ともなりました。高3の九州一周旅行は、新幹線もない時代で、寝台車も使わず、硬いボックス席の列車で、片道二〇数時間かかり、九州内は高速道路もなく、時に砂ぼこりがあがる苛酷なバス旅行でした。そして、当時の運動会では、昼休みに仮装行列があり、私達高三は、各自用意した餅や浴衣で、「鹿児島おはら節」をみんなで踊ったことも良い思い出です。(東孝子 8女)

私の最寄り駅は小田急線ですが、朝は度々遅延するので、明星への通勤には少し遠くな

りますが井の頭線を利用していました。距離は家から2kmです。朝、家を出ると別方向から走ってくるのは「数学」の岸田京子先生です。先生は私と同様の思いで井の頭線の駅に向かうので、雑談しながら並走します。これは、ほとんど毎日のことです。先生は一〇年前に他界されたと、ご子息から伺いました。先生の軽やかな身のこなし、弾む声、忙しかつた朝を思い出します。

(大西雅行・元教員)

「希望の鳥」像余談…女子部一〇周年記念として創られた「希望の鳥」像。その序幕の準備をまかされる。何度かの失敗を重ね、当日を迎える。一発勝負である。結果は成功、一瞬にして幕は下りた。そこには、今にも希望を抱き飛び立とうとする若鳥の勇姿があった。

(多久鉄矢・元教員)

それは、高校一年の秋に起こった。忘れ物を取りに教室へ一歩踏み入れた時、木造の窓ガラスを貫通した工事の丸太が飛び込んできた。間一髪、丸太はガラスの破片とともに私の足元で止まった。あれが当たっていたら、今の私は？木造から鉄筋コンクリート造の校舎へ、建て替え工事が学苑内で始まった六〇数年前の出来ごとである。やがて、母校に勤務した私が常に念頭に置いたのが、木造校舎での温もりと、この出来ごとからの教訓である。

(清水正人 30男)

講堂での男子部カントリーバンドの演奏を聞きたかったが、友人は皆、行つてはいけな

先生に「行っていいですか」と伺うと、「音楽を聞くんでしよう。いいですよ」とのお答え。あの壁は意外と生徒自身が作っていた部分もあったのかもしれない。(匿名 12女)

長い明星生活の中で、何かひとつを取り出すのは難しいですが、ふと思いつくのは、八日間の九州修学旅行でしょうか。数あるでき事の中で、バスガイドさんが教えてくださった「イツペ コツペ サルモンスタ デスタイ ダレモシタ」(「あちこち出かけたので、すっかり疲れました」)。これが正確かどうかも定かではありませんが、その時以来使うことも無かった唯一の鹿児島弁(?)で、古稀をすぎた今も、何故か覚えていて、友人達の顔と共に、なつかしく思い出します。

(中村千恵子 12女)

高校入学後、直ぐ後ろの席の市川俊広君と親しくなった。『宮本武蔵』は読んだ?と訊かれたのが契機だ。小説を読んだことがなかった。借りて、いたく感動したことが脳裏に焼き付いている。剣の道をひたすら探求し、究極の極意、無刀の哲理に到達する。大衆文学を代表する吉川英治が、故郷あきる野市の隣、青梅市の旧宅(草思堂・吉川英治記念館)で四九年に改訂版を執筆したことも影響した。『新・平家物語』を読み、また青梅市隣の羽村市生れの中里介山の比類なき長編(五百万字余)、青梅市御嶽山頂の武蔵御嶽神社の奉納試合で始まる、理不尽で不条理な『大菩薩峠』へと読み進んだ。ニヒルな魔剣、美的な机龍之介の仇討ち小説から深化し、無限に広

がる魅力に想像を刺激されたのを覚えている。(青木秀雄 35男)

明星中から明星高校に進学した私は、昭和四〇年春、すぐに新聞部に入部しました。新聞「欒林(くぬぎばやし)」を、喧々諤々、仲間と論議を重ね発行しました。OBも参加された夏休みの海山の合宿で、大いに楽しみました。三多摩の高校の新聞部の研究会「タマコラム」が学期毎に行われ、他校新聞部の自立した活動に刺激を受けました。また、同研究会での他校の女子部員との交流は、ほのかな楽しみでした。文化祭の前日深夜に、亡き母が世田谷から、なれない車を運転し、差し入れを部屋まで届けてくれたのは、幸せな思い出です。新聞部での活動は、私の青春そのものでした。この三年間の出会いと活動が、六〇年後の「今」を支えているように思えます。

(村崎啓二 37男)

高校時代の思い出は、遠い昔の事になってしまった気がします。野球部に入り、一応、甲子園をめざして練習していました。坊主頭がいやとか、当時、受験勉強も厳しい時であったので、退部する人が多数おり、チームの存続も厳しい時であったことが思い出されません。現在は後輩ががんばって活躍し、近々、甲子園へ連れていってくれるのではないかと淡い期待をしています。今でも夏の大会が始まると、自転車で球場に向かっています。

(河内進一郎 37男)

幼稚園の星まつり。クラスの演目はブレメンの音楽隊。私は豚役が大不満で、皆で肩

組み歌う場面で両隣の友を思い切りゆすり倒し大混乱。先生からは大目玉。母は後に主事先生から、これでは小学校への進学は難しいと言われる。乱暴・暴力は絶対しないと心に決めた事、今も忘れない。(安藤温 37男)

卒業して55年になる明星の思い出、それは長野の民宿で一つ年上の妻に偶然巡り合えたことだと思ふ。来年が金婚式になり、この先いつまで一緒にいられるか分かりませんが、仲良く行くつもり。(丸勝 37男)

明星中学高等学校教育を経た私の座右の銘「健康 真面目 努力」。心に残る言葉です。

#### (黒澤訓行 39男)

私のクラブ活動は放送部でした。学苑祭が間近になり、放送部として部員が二人しかおらず、何をしたらいいのかわからない日が続きました。担任の先生に相談し、放送局にいる先輩を頼ったら、とアドバイスをいただきました。テレビ映画を上映することになりました。借りた映画のフィルムのタイトルは、テレビで人気の「遠山の金さん」。上映する映写機など全く使ったことがなく、学苑祭まで徹夜で映写機の勉強をし、フィルムをかえ、やっと上映でき、音も出ることがわかりました。本番当日、テレビ映画なんか見に来てくれるかな、と思いつつも学苑がスタートしました。会場となった教室は、立ち寄っていたあなたお客様でいっぱいになりました。立ち見客も増えてきて、会場の教室に入り切れなくなり増えました。また「次の上映は何時ですか」と聞いてくるお客様も出始めて、一日数回程度の

上映でいいかな、と思っていたら、一〇回以上も上映することになり大成功。お客様が帰り際に「ありがとう、面白かったよ」と声をかけてくれたのがとても嬉しく、テレビ放送というのは、これだけ人を喜ばせることができるのかな、と思われました。その時のお客様の笑顔は今でも忘れられません。

#### (磯野 茂 10工)

翌年に大学受験を控えた高校三年、一学期の放課後。教室の机を並べて作った簡易「卓球台」。受験勉強なんぞどこへやら、悪友らとラケットを持ち寄り、台の真ん中に立てた教科書をネットに見たて、連日、時間が経つのも忘れ「試合」に興じたものだ。今でもよく覚えているのは、微妙に高さが違う机と机の「継ぎ目」に当たった球の軌道が急変化、これを打ち返すのに苦労したこと。そんなある日、ついに某先生にみつき「御用」となった。きついお叱りを受け、手作り「卓球場」もあえなく閉鎖。一事が万事、こんな調子だったから、翌年の大学受験は見事に失敗、浪人の身と相成った、まさに自業自得。それでも無性に楽しかったあの頃。今となつては懐かしい。

#### (春藤和生 41男)

昭和四五年当時、中学生だった私は、英語部(ESS)に所属していた。ESSの夏合宿は黒姫山荘で行われ、その様子が旺文社の雑誌『中学時代』に掲載されることになり、合宿中ずっと、記者さん同行となった。カメラマンも兼ねていたその記者さんは、その後、映画「三丁目の夕日」で超有名となった西岸

良平さんでした。五〇年以上前のキラリとする思い出のひとつです。(小澤伸光 43男)

私が在学していた頃は、児玉九十先生は学苑本部に居られ、週一回の「凝念」の時間で「心力歌」として「講話」をお聞きしていました。健康・真面目・努力は還暦を過ぎてても支えになっております。(小原益実 49男)

「やかなのカルピス」…星魂を胸にハンドボールに明け暮れた日々。ひたすら汗を流し、泥にまみれた三年間でした。汗で塩味がする土のコート。暗くなった部屋で泥まみれのボールをタワシで磨く毎日。昭和五三年、高二の夏は、部員八名での炎天下、いつ終るか分からない練習。そんな時、大先輩からの、やかに氷をいっぱい入れて、ギンギンに冷えたカルピスの味。一生忘れていません。遠くから練習を笑顔でみている九十先生の姿も印象深く残っています。ハンドボールに明け暮れた青春の一ページとして。

#### (山本純一 49男)

小学校(22星会)から高校(51星会)までお世話になりました。小学校では、とにかく校庭で遊んでいました。テニスラケットでの野球、アメフト等、制服が泥まみれでシャツのボタンが取れたり、破れたり当り前でした。中学になり購買部の上にあった食堂での昼食は、カレーとタンメンとかを一緒に注文できる事が新鮮でした。バスケット部に所属していました。バリアリ元気な先生にピンビシしごかれました。体育館での合宿や菅平だったかの合宿も、高校生と一緒に楽しかった

し、辛かったイメージではありません。高校では、文系・理系と分れての授業になったりしましたが、基本、クラスメートとの仲は良かったと思います。いきなりロッカー検査され、教科書を置きっぱなしにしたのがばれて、こっぴどく叱られた事もありました。夏休みにあつた高遠での補習授業も楽しかったです。それぞれ思い出はたくさんありますが、今現在でも、小中高の友人たち、先生方と繋がっていられるのは、SNSの発達のおかげもありませんが、私立の良さでもあると思います。

#### (野村 篤 51男)

昭和五七年一月一〇日、新しい「至誠館」が落成し、私は卓球部の部長として竣工式に参加しました。剣道場と柔道場だった木造平屋の至誠館が卓球場と合宿所も完備された鉄筋コンクリートの二階建てとなり、ワクワクしながら建物を仰ぎ見ていたことを思い出します。建物の中に入り、新しい卓球場を見た瞬間、驚愕しました。「天井が低い!!」今まで天井の高い体育館で活動していたため、ロブの高さなど気にも留めませんでした。これではロブを上げると天井にぶつかってしまおう! 天井とにらめっこしつつ、それでもワクワクしながら毎日活動したことをとても懐かしく思います。

#### (森田 修平 52男)

高校三年間柔道部に所属し、至誠館で毎日部活に励みました。練習はきつかったのですが、たくさん仲間と汗を流し、卒業後も交流があります。卒業後は、明星大に進学し、大学でも柔道部に所属。同じ階で活動してい

た剣道部の同級生と結婚。長男を明星大学、三男は明星高校と明星ファミリーになりました。全ての原点は至誠館です。高三の時に今の至誠館が新築され、新しい道場で稽古しましたが、今ではだいぶ古くなりました。三男が剣道部で見学に行きましたが、感慨深いものがありました。

#### (嶋崎 敏明 51男)

毎朝ギリギリで登校していた僕は、度々、学校とは逆の方へ向かう生徒と会いました。聞くと、昇降口に先生が立っているとの事。慌てて駅へ引き返したものです。時代は急速に流れ変化していますが、「健康・真面目・努力」の明星健児は、今日も前進を続けているのでしょうか。

#### (阿藤 将 54男)

私は当時、野球部に在籍していました。野球部で過した日々を振り返ると、苦しい思い出も楽しい思い出も含めて、胸が熱くなります。野球部では今でも語り継がれる熱血指導の牛久保先生の下でプレーし、厳しい練習に取り組んでいました。苦労も多かったですが、それは仲間との絆を深める絶好の機会でもありました。私が後輩たちに伝えたい事は、辛いことも乗り越える力を持って、これからの時代を生き抜いてほしいという事です。困難も多様化していますが、学校で学ぶ様々な経験が自らを成長させます。やがてその力は、これからの世界を生き抜くための強さと、誰かを幸せにすることが出来る優しさに繋がるはずです。未来の舞台で、あなたたちが耀く姿を見られるよう、期待しています。

#### (福島 修 55男)

中学一年から高校三年の最後までサッカー部に所属していました。東側にあつた横長の二階建ての部屋で着替えて、毎日遅くまで部員達と練習に打ち込んでいました。真っ先に思い出すことは成長著しく(?)、育ち盛りな時でしたから、とにかく沢山食べた事です。朝食を済ませ、登校するとすぐに早弁。暫くするともう腹が減る。授業終了のチャイムが鳴るとダッシュして、中庭で売っていたパンを買ってすぐに食べる。昼前にはまた腹が減る。ドキドキ感があつた昼休みのチャイムが鳴ると同時に猛ダッシュ! 当時、購買部2階にあつた食堂へ、階段を一気に駆け上がり、握りしめた食券を売り場に出す。思い出すと懐かしい伝説のカレー、タンメン、うどんを一気に食べる。そして午後の授業が終わり、練習前にまたまた腹が減っているが、ここはぐっと我慢する。それは、楽しみの一つであった、練習後、部員達と一緒に買った今は無き、丸十パンでチェリオとハムカツパンを買って飲み食いしながら話をする為に。ここまですべて何と五食を完食し、帰宅して夕食、そして寝る前に夜食。今では考えられない一日7食の毎日でした。とにもかくにも毎日「THE青春」でした。一体、いつ勉強していたのかあまり記憶が：全くありません! 明星学苑で培った「健康・真面目・努力」。この三つの言葉はとても大切であり、更に「感謝」を追加して、毎日の糧にしています。我が母校の良いところは、卒業後、数十年経過してからもジワジワと感じられてくるところだと思いま

す。卒業してよかったときと思えるでしょう。同窓会等で久しぶりに会ってもすぐに、当時の話で大いに盛り上がりります。これは一生の宝です。

(野口雅生 55男)

一〇〇周年おめでとうございます。六〇周年記念式で歌った「タンホイザー」を聴く度に、バックル付きの制服で、無邪気に過していた記憶が蘇ります。

(坂本多恵 31女)

高校の入学式に講堂の中で、自分の座る席はどこかと周りを見渡していた時に、声をかけてくださったのが、担任となる川名米子先生でした。学籍番号を聞かれて答えた時に、即座に「津里(つり)さんね!」と名簿等を見ずに言われた先生に、びっくりしたこと、とても嬉しかったことを覚えていますが(私の名字は珍しく、一度で正しく読んでもらえることは少ないのです)。あの時、川名先生に感じた尊敬と安心感は、私にとって高校生活の嬉しかった思い出の一つです。

(津里なおみ 33女)

小学校教員として勤め二七年が経過しましたが、旧校舎から現在の校舎に変わりましたが、どちらも様々な思い出が詰まっています。やはり、小学生時代の思い出は今でも鮮明に覚えています。特に私自身が好きだった場所は一年生教室です。教室の前には、人工芝?が敷かれた広い場所があり、観察池もあり何もかもが楽しい毎日でした。学年が上がると、放課後が終わるギリギリまで、校庭でドッジボールやラケットベースをしていた。そして、運動があまり得意でなかった私も、休み時間

になわとびや一輪車を繰り返し練習し得意になった。とても充実した時間を過ごしていた小学校は、私にとって居心地の良い場所であった。そんな思い出いっぱい小学校に勤務できる幸せを味わいながら、これからも子どもたちと楽しく、充実した時間を過ごしていきたい。

(夏苺崇嗣 61男)

昭和から平成へ移り変わる時代を過ぎた、中学のバスケットボール部。平凡な運動神経でしたが、全国三位になった先輩達に憧れ、体育館で山寺先生に日々鍛えられ、戦うチームになっていく過程は、少年マンガのようでした。関東大会へ出場できたのは懐かしい思い出です。

(大室 元 63男)

あの日、あの時、中学高校と英語部に入っておりしました。研修で夏休みなどで福島県天栄村ブリティッシュヒルズに行きました。その後、3・11を高校の美術室で被災しました。防災で人の為になりたいと思ひ、現在は「杉並区議会議員」として働き、区民の命と生命を守っております。在学生の皆様も、日々研鑽を積んで大きく羽ばたいてください。

(宮川美香 3共)

中学高校と明星学苑に通いたくさんの思い出ができました。体育祭や明星祭、合唱コンクール、修学旅行など行事の思い出も多くありますが、思い出すのは何気ない日々です。くだらないことで爆笑したり、授業中に怒られたり、遅刻しそうになって、朝から全速力で走ったり、放課後に廊下でふざけたり…。こんな日々が本当に楽しく充実していたと懐

かしく感じます。人生の中で大切な学生生活を明星学苑で過ごせたこと、すばらしい友人や先生方に出会えたこと、心からうれしく思います。

(古澤日花 12共)

初めて正門をくぐった小学校二年生の春から、実に一〇年以上通った明星学苑。校舎はいつでも生徒の笑い声であふれていただけでなく、先生方の丁寧で温かいご指導を受けることができました。いつでも親身に相談にのってくださった先生、夜遅くまで部活動でご指導してくださった先生、どんな時も笑わせてくれた友人。どれも今となっては、大切な思い出です。明星学苑で過ごした時間は、私にとって一生の思い出です。

(ヒリアー慧将 13共)

明星に入学し、初めて学舎に登校した日は勉強や部活、友達を作れるかなどの不安がたくさんありました。しかし、明星にいる同級生や先輩、そして先生方は優しい人ばかりで、日が経つにつれて不安なことが無くなりました。友達と学舎で何気ない会話をするのが楽しかったです。文化祭や体育祭、合唱コンクールのような大きな行事ひとつひとつが思い出として心に残っています。私は明星の校訓である「健康・真面目・努力」を意識しながら勉学や部活に励みました。明星在学中にこの校訓を行ってきたことで、大学でも活かせることができていると思います。明星はたくさんの学びや経験をすることができると楽しい学舎でした。

(今平透吾 14共)

私は幼稚園から一五年間、明星学苑に通わせて頂きました。その中でも、高校生活の三年間は色濃く思い出に残っています。入学する年の二〇二〇年は、新型コロナウイルスが流行し、入学式を行うことが出来ませんでした。今までに体験してこなかったリモート授業や自粛期間、マスクを着用しての学校生活は、私が思い描いていた高校生活とは全く違うものでした。ですがその中でも、生徒は順応し、制限はありましたが、体育祭や文化祭、校外学習や修学旅行など、楽しい思い出も沢山残っています。探究活動では、事業の方々

と連携を取り、課題の解決に向けて周囲と協力しました。豊洲の販売会では、準備の段階からどのようにしたら商品に注目してもらえるかを工夫し、販売会当日には商品の説明やお金の取り扱いなど、他の高校では経験することの出来ないような事をさせて頂きました。この三年間、制限はありましたが、とても充実した時間となりました。明星学苑での沢山の経験を大切に、自分の夢へと向かい、一生懸命に歩んでいきます。(今野明凜 15 共)

強く印象に残っているのは、中学三年生の合唱コンクールで、MGSクラスとして二年連続の金賞受賞、最優秀賞受賞を目指し、クラス全員が一つになって臨んだ行事である。本番間近、朝練習や最終下校時刻まで残った放課後練習では、練習を撮影した動画を見て、改善点を探した。本番前日には、本番で意識すべき事を黒板に書き出し、翌日の最終練習時に備えた。本番当日、教室での練習後、円

陣を組んでから講堂に向かった。一部始終は今でも鮮明に記憶に残っている。今までで一番良い合唱だったと思う。「一番楽しかった」と言い合えるような合唱ができて、目標としていた金賞、最優秀賞を受賞できた。さらに、クラスの指揮者と伴奏者がそれぞれ最優秀指揮者賞と最優秀伴奏者賞を受賞し、一人ひとりの努力が実った瞬間でもあった。今もその合唱の動画を見返すことがあるほどに、私にとって大切な思い出である。

(吉田莓花 15 共)

私の明星高校での最も感動的な時間は、課外活動としてSDGs(持続可能な開発目標)に取り組んだ経験です。地域や学校内での啓発活動やプロジェクトに情熱を注ぎました。SDGsへの取り組みは単なる活動ではなく、共に未来を築く使命であり、感動と希望を生むものなのです。出身高校でのSDGs活動は私にとって、ただの思い出ではなく生涯の宝物となりました。それは人々の絆を深め、持続可能な社会を築くために必要な力を養う場でもありました。この感動的な経験を通じて学んだことは、個人の小さな行動が大きな変化をもたらす可能性を秘めているということです。私は未来を担う者として、その可能性を信じ行動し続けます。この感動的な経験は、私の人生の中でずっと耀き続けるでしょう。そして、SDGsを広めるために周囲の人々に影響を与え、共に行動することで、より大きな変化を実現していきたいと考えています。

(藤大輔 15 共)

現在、明星中学校・高等学校で教員として勤めております八幡幸司と申します。明星に勤めて十三年目になります。今回は一〇〇周年の記念すべき会報という事で、同窓生でもない私ですが、明星一〇〇年の歴史の中には生徒だけでなく教職員や事務の方、食堂や学苑全体に関わるスタッフ、地域の方々まで多くの人の関わりの中に学苑があったことを考えると、私のような立場で明星の一〇〇周年をお祝いすることも意味のある事のように思い、今回メッセージを寄せさせていただきます。

私が明星同窓会会報に関わらせていただいた経緯は、同窓会報(第24号)にて、『「体験教育」の紛失号を探していますー「体験教育」調査へのご協力のお願いー』という記事を掲載させていただき、続報として第25号にも、そのご縁でお会いした卒業生の方々の報告をさせていただきました。その後も「体験教育」調査は続けており、多くの方に協力いただいておりますが、紛失の16号分の発見にはいまだに至っておりません。ただこの「体験教育」調査を通して、時代を超えてたくさんの方が繋がった明星学苑の「思い」に触れる機会を得ることができました。今ではこの「思い」こそが、「明星学苑の宝物」なのだという事を、確信を持って感じております。私も一〇〇年の「思い」を受けとめ、これからもその「思い」を本校の教員として繋げていければと思っています。(八幡幸司・教員)